

農林水産技術会議
技術指導資料
平成23年1月

業務用需要に対応した 寒玉系キャベツ4~5月どり栽培法



千葉県

千葉県農林水産技術会議

1

業務用4～5月どり寒玉系キャベツとは



(1) 業務用寒玉系キャベツの需要

近年、野菜の消費形態が大きく変わり、生鮮品を店舗で購入して家庭で調理する家計消費用に
対し、レストラン等の外食産業やコンビニ向け惣菜等の中食産業で使用される業務用が過半を
占めるまでになった。

業務用キャベツは、トンカツの付合わせやサラダ等のカット加工品、ギョウザ、お好み焼き等の
加熱調理品として広く使われている。これらの業務用キャベツでは、特に加工歩留まりが重要な
ため、固く締まり、葉質のしっかりした寒玉系キャベツが求められている(写真1)。

業務用野菜取引では、作付け前に取引先と契約することが前提である。契約に当たっては、
出荷時期、数量、品質、販売単価とともに、天候等により出荷ができない場合の対応についても決
めておく必要がある。



写真1 業務用に適した寒玉系キャベツ(左)と春系キャベツ(右)

(2) 4～5月どり栽培の概要

業務用には、定時・定量・定品質と言われるように、いつでも・決まった量・決まった品質の
キャベツが必要とされる。しかし、キャベツは春に抽だい、開花する性質を持つため、4～5月の
安定生産は困難である。特に業務用に適した寒玉系キャベツがこの時期に不足し、安定供給が強
く望まれている。この時期を埋める作型として、品種の育成が進みつつある秋播き5月どり露地栽
培、さらに前進化を図る4月どりトンネル栽培がある(図1)。

適品種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
Y R 春空		●●		▲			×	■
寒玉6号		●		▲			×	■
Y R 天空		●●		▲▲			×	■
さつき王	●●	▲▲						■
寒玉6号	●	▲						■
さつき女王	●●	▲▲						■
初恋*				●		▲		■

図1 4～5月どり業務用キャベツの栽培暦

注) 凡例 ●: 播種 ▲: 定植 ■: 収穫 ◡: トンネル ×: トンネル除去 ---: べたがけ

* 春播きで5月下旬から収穫できる「初恋」(トーホク)は、葉質がやや軟らかいため、加工の用途について、
事前に実需者との協議が必要。

2 4月どりトンネル栽培



(1) 作型の意義

保温資材を要するトンネル栽培は、露地栽培による寒玉系キャベツの端境期である4月中旬～5月までの期間を埋める作型である。トンネル被覆で保温を行う目的は、低温により誘発される花芽分化の防止・遅延、早出しを行うための生育促進が主となる(写真2)。

(2) 品 種

ごく強い晩抽性(花成しにくい性質)と早生性(生育が早い性質)を有する品種が適する。4月中旬から5月まで継続出荷するには、早晩の異なる品種をリレー的に栽培する。

4月中旬どり：YR 春空(タキイ種苗)

4月下旬どり：寒玉6号(増田採種場)

5月上中旬どり：YR 天空(タキイ種苗)



写真2 トンネル栽培

(3) 育 苗

128穴セルトレイを用いたセル育苗を行う。厳寒期のため、ハウス内で育苗する。

(4) 栽培方法と管理上の注意点

①播 種 品種ごとの播種期を厳守する。

YR 春空：11月15～25日 寒玉6号、YR 天空：11月25日前後

②定 植 45日～50日育苗

べと病が多発しやすいので、予防的な防除を行う。

ベッド幅135cm、条間30～35cm、株間50cmの4条千鳥植えが基本。

③換 気 昼夜固定とし、頻繁な換気作業は行わない。

初期のみ密閉し、活着後は風下側の片裾をわずかに浮かせる。株同士が接触しだしたら、両裾換気を開始する。結球肥大に併せて徐々に換気を増やし、4月上旬にトンネルを除去する。

④収 穫 結球重1.5～2kgを目標とする。

早生性の強い品種ほど裂球時期も早いので、適期収穫を心掛ける。



写真3 レタストンネル栽培で用いたトンネル、マルチを再利用できる

(5) 被覆資材の再利用

- ① **被覆材の再利用** 被覆資材やその設置・撤去の作業を軽減するために、レタストーンネル栽培等に用いたトンネル、マルチをそのまま利用して、キャベツをトンネル栽培することが可能である(写真3)。
- ② **施肥** セル成型苗の培養土に施用するセル内基肥は、「育苗じまん 2401-80」を用い、施肥量は窒素 1g/株(肥料現物で 4.1g/株)とする。この方法により、トンネル、マルチを再利用しても省力的な施肥が可能となる。

3 秋播き5月どり露地栽培



(1) 作型の意義

春先の温度上昇を使って、できるだけ早く収穫期を迎えるための作型である。そのため、花成しないぎりぎりの大きさまで生長した株で越冬させ、越冬後に株が動き出したら、ストレスなく生育させる必要がある。

(2) 品 種

晩抽性と早生性に優れた品種が適する。
寒玉6号(増田採種場)、さつき王(日本農林社)、
さつき女王(日本農林社)



写真4 収穫期の「寒玉6号」

(3) 育 苗

この作型では、ある程度生長した株を定植できる地床苗が適する。

(4) 栽培方法と管理上の注意点

- ① **播 種** 品種ごとの播種期を厳守する。
寒玉6号：10月10日～20日
さつき王、さつき女王：10月15日～25日
- ② **定 植** 11月末までに定植することが望ましい。地床苗は本葉4～5枚、セル苗は本葉2.5～3枚が定植適期となる。栽植密度は、畝間55～60cm、株間35cmの1条植えを基本とする。
- ③ **中耕、培土** 定植直後と定植20～30日後および2月中下旬を目処に中耕、培土を行う。雑草の発生や大雨で土壌が固まった場合等には、適宜行う。
- ④ **追 肥** 定植20～30日後、2月中下旬の中耕、培土時には、併せて追肥を行う。さらに、結球開始期を目安に追肥する。地力が低い圃場では、肥切れを起こさないようにこまめな追肥を行う。
- ⑤ **べたがけ** 霜害や鳥獣害の防止のため、12月から3月まではべたがけ被覆を行うと、安定生産につながる(写真5)。
- ⑥ **収 穫** 結球重1.5～2kgを目標とする。



写真5 べたがけによる被覆